

バリアフリー重点整備地区実態調査アンケート分析留意点

1. 本調査は、調査アンケートがあまり多くないため、傾向は捉えられるが、実態を正確に表しているものではない。
2. データーから方向を捉える場合、当協議会の本旨は、町のバリアフリーを基礎概念としなければならない。ついては、交通の利便性、商業の振興、観光等は、目的ではなく、これらは付随的に派生する要因である。
3. 実態調査の趣旨は、交通弱者が安全・快適に歩けるまちづくりのものであり、アンケートの総体を捉えるのも大切だが、データーの中で注視すべきポイントは、高齢者、歩行者、自転車などの回答に留意すべきである。

<アンケート回答者数>

○37名（男性：24人 女性：13人）

○64歳以下：23人 65歳以上：14人

○自動車利用：26人 自転車か歩き：11人

1. あなたは、バリアフリーとは何かご存知でしたか

	性 別		年 齢		重点地区移動手段		合 計	備 考
	男	女	64歳以下	65歳以上	自動車利用	自転車か歩き		
よく知っていた	17/24	5/13	14/23	8/14	16/26	6/11	22/37	
漠然と知っていた	6	8	8	6	9	5	14	
詳しくは知らなかった	1	0	1	0	1	0	1	
全く知らなかった	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	24	13	23	14	26	11	37	

・バリアフリーの言葉について参加者は、ほぼ全員が大筋を理解している。

2. あなたは、銀行、郵便局、医院、買い物へは主にどのようにしていきますか

	性 別		年 齢		重点地区移動手段		合 計	備 考
	男	女	64歳以下	65歳以上	自動車利用	自転車か歩き		
車で行く	19/24	7/13	21/23	5/14			26/37	
自転車か歩き	3	3	0	6			6	
歩き	2	2	1	3			4	
自転車	0	1	1	0			1	
その他	0	0	0	0			0	
合 計	24	13	23	14			37	

・車での行動は、男性は圧倒的に多いが、女性は、車と車以外を比較すると7：6でほぼ半々である。

・64歳以下では、大半が車であるのに対し65歳以上は64%が歩きか自転車である。（バリアフリーを検討する時点の重大な判断要因である）

3. あなたは日常の買い物をおもにどこでしますか

	性 別		年 齢		重点地区移動手段		合 計	備 考
	男	女	64 歳以下	65 歳以上	自動車利用	自転車か歩き		
町の商店街	1 / 2 4	0 / 1 3	0 / 2 3	1 / 1 4	1 / 2 6	0 / 1 1	1 / 3 7	
車、電車で茂原など	4	2	5	1	5	1	6	
ショッピングセンター	1 4	8	1 1	1 1	1 4	8	2 2	
上記箇所へ同程度	5	3	7	1	6	2	8	
その他	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	2 4	1 3	2 3	1 4	2 6	1 1	3 7	

- ・ 日常の買い物は、男女ともショッピングセンターが過半数を占める。
- ・ 64 歳以下については、車の行動が多いためショッピングセンター以外が半数強を占めるが 65 歳以上はショッピングセンターが 8 割弱が占める
- ・ 移動手段についても自転車や歩きはショッピングセンターが多い。

4. 近い将来高齢者が 3 人に 1 人という状況を迎えるにあたって、歩道をどのように考えるか

	性 別		年 齢		重点地区移動手段		合 計	備 考
	男	女	64 歳以下	65 歳以上	自動車利用	自転車か歩き		
当然人が安全、快適に歩くことが大前提に作るべき	1 9 / 2 4	1 1 / 1 3	1 7 / 2 3	1 3 / 1 4	2 0 / 2 6	1 0 / 1 1	3 0 / 3 7	
車社会では、車庫入れのための歩道の傾斜など仕方が無い	6	3	8	1	8	1	9	
人も通っていないし、車社会では車を中心に考えるのが妥当	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	2 5	1 4	2 5	1 4	2 8	1 1	3 9	複数回答あり

- ・ 人が安全。「快適に歩くための歩道」という回答が性別、年齢、移動手段を問わず圧倒的に多いが、64 歳以下の車利用者では「車庫入れのための傾斜などは止むを得ない」との回答も 3 割程度見られる。

5. このまちでどのような道路を期待しますか（回答は2つまで）

	性 別		年 齢		重点地区移動手段		合 計	備 考
	男	女	64歳以下	65歳以上	自動車利用	自転車か歩き		
車の通りやすい道路	8/24	1/13	7/23	2/14	9/26	0/11	9/37	
安全快適な生活道路	22	11	19	14	22	11	33	
散歩道	4	1	3	2	4	1	5	
サイクリング道路	1	0	1	0	1	0	1	
整備された農道	0	0	0	0	0	0	0	
自転車道路	4	6	4	6	3	7	10	
その他	0	2	2	0	2	0	2	
合 計	39	21	36	24	41	19	60	複数回答あり

- ・「生活道路」の指摘が圧倒的に多く89%で、特に「65歳以上」、「自転車・歩き」では100%の者が指摘している。
- ・「車の通りやすい道路」については、24%とあまり高くは無い。
- ・「自転車道路」については、「女性」、「65歳以上」、「自転車か歩き」の者の指摘がかなり見られる。

6. バリアフリー重点地区を歩いてどのように感じましたか

	性 別		年 齢		重点地区移動手段		合 計	備 考
	男	女	64歳以下	65歳以上	自動車利用	自転車か歩き		
さほどバリアは無かった	1/24	0/13	1/23	0/14	1/26	0/11	1/37	
多少歩きにくかった	7	1	6	2	7	1	8	
非常に歩きにくかった	9	5	8	6	10	4	14	
危険を感じた	6	10	10	6	11	5	16	
その他	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	23	16	25	14	29	10	39	複数回答あり

- ・「危険を感じた」がもっとも多く、続いて「歩きにくい」が多く、81%のものがどちらかを指摘している。特に女性に「危険を感じた」者が多い。

7. バリアは感じた方は、どこで感じましたか(複数回答)

	性 別		年 齢		重点地区移動手段		合 計	備 考
	男	女	64 歳以下	65 歳以上	自動車利用	自転車か歩き		
狭い歩道	21/24	8/13	20/23	10/14	22/26	7/11	29/37	
放置自転車	0	0	0	0	0	0	0	
歩道上の違法駐車	0	0	0	0	0	0	0	
歩道内の電柱や道路標識	15	10	15	10	17	8	25	
暗渠の上	3	3	3	3	3	3	6	
暗渠の穴をふさぐ蓋	4	4	3	5	4	4	8	
歩道の車庫入れの横断傾斜	9	6	9	6	10	5	15	
歩道の破損	9	6	8	7	9	6	15	
歩道へはみ出した店の陳列物	8	9	9	8	11	6	17	
歩道をはみ出した看板やテント	3	11	5	9	6	8	14	
その他	0	1	1	0	1	0	1	
合 計	72	58	73	58	83	47	130	複数回答あり

・「歩道が狭い」はすべての対象で比率が高く、「電柱や道路標識」では、「女性」、「65歳以上」「自転車か歩き」の者の指摘が非常に多い。

8. 高齢化に向かって駅や駅周辺に何を望むか(複数回答)

	性 別		年 齢		重点地区移動手段		合 計	備 考
	男	女	64 歳以下	65 歳以上	自動車利用	自転車か歩き		
駅周辺の放置自転車排除	3 / 2 4	1 / 1 3	2 / 2 3	2 / 1 4	3 / 2 6	1 / 1 1	4 / 3 7	
駅前の車最徐行	0	1	0	1	0	1	1	
駅舎へ入る車椅子用の傾斜	1 6	1 1	1 5	1 2	1 8	9	2 7	
駅舎への階段を低階段に	7	7	9	5	1 1	3	1 4	
駅東口への出入り口	1 2	5	1 0	7	1 3	4	1 7	
駅ホームのベンチ増設	2	2	2	2	2	2	4	
高齢者・障害者・妊婦用エレベーター	7	8	5	1 0	8	7	1 5	
トイレの改善(障害者・高齢者対応)	8	7	6	9	9	6	1 5	
キャリーバッグ用スロープを階段に	3	7	6	4	7	3	1 0	
その他	0	1	0	1	0	1	1	
合 計	5 8	5 0	5 5	5 3	7 1	3 7	1 0 8	複数回答あり

- ・「車椅子用の傾斜」については最も多く7割を超える。
- ・「駅東口」も多いが、男性のわりに女性が、自動車のわりに自転車・歩行者が少ない。
- ・「エレベーター」「トイレ」に関しては、男性より女性が、64歳以下より65歳以上が、自動車利用者より自転車・歩行者の比率が非常に高い。

9. 高齢者や障害者や誰もが安心して歩けるやさしいまちづくりのために何を行えばよいのか（自由意見）

- 歩道をアスファルト化し、U字溝をふさぐ(男 65 歳)
- 段差の少ない歩道 (女 66 歳)
- ・歩道の整備 ・駅出入り口のスロープ整備(男 56 歳)
- ・高齢者、障害者に関係なく、歩くこと自体に危険を感じる歩道です(国道) ・歩道の幅、車道の幅が足りていない(男 29 歳)
- ・個人的には、さまざまな視点から見たが何が正しいのか分からない。ただ、社会的弱者が守られるような環境を作っていくことが大切だと感じた ・普段歩くことの無い道を歩いたことで気が付いたことが多かった(男 25 歳)
- 難しいと思いますが、少しずつでも改善してほしい (男 42 歳)
- ・「バリアフリー」の考え方の中に是非「ベビーカーの利用者」「小さな子供をつれて」も対象に加えていただけたらと思う。
「揺さぶられっ子症候群」「A型、B型ベビーカーの違い」の2点において特に皆さんに知っていただきたい
- ・トイレには、オムツ替えスペース(男女とも)も有るのが理想的です
- ・限られた道幅を車も人も自転車も仲良く気持ちよく利用するためには、まず、心のバリアフリーを考えたいと思います。困っている方がいれば手を貸す・・・それが当たり前出来るやさしい町であってほしいと思う(女 38 歳)
- 教育の中で普段から心がける(男 58 歳)
- あまりにも健康な人向きに作られている。考える人、作る人がみな健康な人。利用するのは声の上げられない老人や障害者のように思う
(女 60 歳)
- 128の歩道が最近少しずつ整備されておりますが、バリアフリーには少し足りないままで整備されています。行政の方で連絡を取り、経費の無駄にならないよう最善の方法で行ってほしい(女 67 歳)
- 何より安全に歩けるようにしたい(女 66 歳)
- ・“車も歩くエリアに” ・どちらかを優先して歩ける道に ・商店の参加 ・休み場所を設置 (男 70 歳)
- 県に要求することが多く、それが先決(男 69 歳)
- 一宮町西部住民のために BASIA に渡る堰の上に歩行道路を設置されると有り難い(男 75 歳)
- 今日のような歩行点検をもっと高齢者、障害者に呼びかけて何回も行うと良いと思う。私も町の歩道を歩いて何度も転びました。自転車も厳しいです
大変なことですが128号線のバイパスを作るのも良いかと